

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092600069		
法人名	株式会社 サンシャインライフ		
事業所名	サンシャイン神戸の杜グループ ホーム		
所在地	長野県木曾郡南木曾町読書3227-4		
自己評価作成日	平成27年9月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成28年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの状況や希望に合わせて、個性を活かして頂ける様に取り組んでいます。日常生活そのものが生活リハビリになるように、掃除・洗濯・食事作り等はその日の入居者の状態に応じて皆さんで行っています。特に食事作りは食べる楽しさと作る楽しさを実感して頂きたいと考え、季節感も感じて頂くために季節の食べ物を献立に取り入れています。また、行事として外出する機会を持ち、買い物や外食などで食べる楽しさも味わって頂く事も大切にしています。趣味や楽しみも一人ひとりに合わせて支援していく事を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日常生活そのものが生活リハビリになるように利用者の思いを大事にして、「目はかけても手はかけない」「出来ることを継続して」という思いで管理者はじめ職員が取り組んでいる。利用者はそれぞれの出来ることを役割として率先して掃除や食事を行っており、そのことが結果として、3年たっても利用者のレベルが変わらないでいられるという状況につながっている。また、今迄何もなかった利用者が自分から洗濯物を干すようになったなどの変化も出ており、常に理念に添って実践を行うよう努めている。運営推進会議では日常の様子や報告され、委員からは日々の暮らしを支援するための具体的な提案が出され実践され、サービス向上のための効果的な会議となっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(もみじユニット)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんど掴んでいない			
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		2. 数日に1回程度ある			
		3. たまにある			
		4. ほとんどない			
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(つつユニット)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>開設当初からの理念(暖かい笑顔で、心を込めた愛情あふれるケア・寄り添い触れあい耳を傾け共に過ごすケア)を常に意識しながら日々のケアに取り組んでいます。</p>	<p>困難事例があっても、これからどこへ向かっていくかということを念頭に置いて「理念に戻って」と考えるようにしている。管理者はじめ職員の間でも先輩から新しく入った職員へと、利用者の状況に合わせた支援に向けて理念の考え方を伝える努力をしている。</p>	<p>出来ることを継続して行うことにより利用者の行動変化が表れ、レベル低下も防ぐことが出来るという取り組みを、日々の事例を通して新しい職員へ受け継ぐことにより、更に理念を深め支援を発展させていくことを期待したい。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治体へ加入しており、広報の配布を受けているため地域の情報も得られ、地域のお祭りや敬老会などの催し物への参加や・地元高校生との交流会・中学生職場体験受け入れ・小学生との交流会・演芸ボランティア等で交流しています。</p>	<p>自治体に入っていることで地域との情報交換が出来、行事のお誘いもあり、夏祭りや美術工芸展、風俗道中など地区の行事に参加している。小中高生徒の交流も継続している。老人会への職員派遣の要請もあり、事業所と地域は常につながりを持っている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の老人会などからスタッフ参加要請を受けたり、地域の行事に参加する等認知症の理解を獲られるように努めています。また、災害時の福祉避難所として町と協定を結び災害時の受け入れ態勢を整えています。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では活動状況や入居者の状況を報告したり、困難事例の相談を行い、様々な意見交換を行っています。委員には包括支援センター職員・消防署員・区長・民生委員や近隣住民の方等に委員となって頂き、地域の情報を頂いたり、災害時の協力体制を整えて頂くなどの協力も得られています。</p>	<p>日々の状況を報告する中で、刺し子ボランティアの紹介、干し柿作りの手仕事の提供など、直接利用者に関わる具体的なことが話し合われ、サービス向上のために活かされている。委員には二次避難の様子も見てもらい災害時の協力体制もできている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>月1回の地域ケア会議・ケアマネ会議等へ参加し、情報交換や困難事例の相談を行ったり、電話での相談も受けるなど協力関係を築くように努めています。</p>	<p>地域的に独居の方が多いためから体験入所から包括に関わってもらうなど、入所に関することや困難事例など利用者や家族が困らないように、担当者とは常に関わりを持ち協力関係が出来ている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>入社時やスタッフ会議の場で、具体的な内容について話し合う機会を設け、拘束をしないケアに取り組んでいます。ホームの立地条件上玄関先は危険を感じますが、スタッフ同士の声掛けや見守りで玄関を開放し身体拘束にならないケアに取り組んでいます。</p>	<p>課題であった玄関の施錠については職員の話し合いで解放を行った。常に目を離さないで見守ることを心掛け、ヒヤリハットについても細かく記録し事例について話し合いを行い、職員間で共有し、常に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止法を入社時研修項目にいれ、虐待防止について学び、スタッフ同士で常に意識してケアに取り組んでいます。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度を活用できるように支援し、入居者の何名かは制度を利用している方がいます。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の相談があった時点から、契約内容について十分な説明を行ない、入居が決定した場合は契約書の内容を再度説明したりして理解して頂くように努めています。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族・利用者からは管理者に対して要望を言いやすい雰囲気作りや信頼関係づくりに心がけています。意向確認書に家族に希望を記入して頂き全員で情報を共有し、ケアプランの更新時にはケア反映するように努めています。</p>	<p>面会や外出などで家族や身内との関わりが多く、機会をとらえて意見を聞くように努めている。意向確認書では家族からの細部にわたる意向確認を行っており、利用者の日々の支援に活かされている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議を行い、代表者・管理者・職員と意見交換を行い、運営に反映できるように努めています。また、日々のミーティングでも意見交換を行い運営に反映させています。	定例会には社長も出席し意見交換を行っている。職員から出た意見は管理者を通して社長にも伝えられ、勤務体制への希望が受け入れられるなど職員の意見が反映されやすい体制がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ同士の信頼関係づくりに努め、働きやすい職場環境づくりに努めています。また、個々の向上心や自己研鑽状況により処遇の改善を行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修会の情報をスタッフに提供し、学ぶ機会をより多く持ちスキルアップしていけるように努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣で活動しているネットワーク研修会に加盟し勉強会や研究発表会に参加し、質の向上に努めたり、同業者と交流する機会を持っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の事前面談時には、本人の思いの汲み取りや、不安なことに対してはできるだけ丁寧に説明を行い、入居をされるにあたって、体験入居して頂き、サービスを利用するか決められる方もあり信頼関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや不安等を丁寧に伺い、要望に添えるように十分な話し合いを行い、信頼関係を築くように努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込みがあった時点から、情報収集を行い、必要なサービスを見極め、理解して頂ける様に説明と話し合いが出来るように努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時の情報や入居後の状態をスタッフ全員で共有し、信頼関係を築くように努めたり、常に細やかな気遣いを行っています。また、共に過ごすことを理念に掲げ、日々のケアに取り組んでいます。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係性を大切にし常に利用者の状況や要望など報告し、協力しあえるように支援しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族やケアマネから情報収集し(センター方式シート使用)地域社会との繋がりを把握し、外食・理美容院・買い物等地域との関係性が途切れない様に支援しています。	お盆やお正月には外泊される利用者もいる。地域の方の面会があったり、かかりつけの理美容院で髪を切ったり、コンビニへ買い物に行くなどで人や地域との関係性が途切れないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常に間に入り共通の話題を提供したり家事を一緒に行って頂くなどより良い関係が持てるように努めています。また、利用者さん同士の支え合いの場面も見受けられます。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合は、その後のサービス利用状況もあるので、継続した支援は難しく感じています。入居中の生活の様子をアルバムにして家族に届ける事もあります。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時から情報収集を行ったり、日常の会話の中から思いや願いを聞き出し、職員間で共有し出来るだけ本人の意向に添えるように努めています。	普段の生活の中で職員とゆっくり関わる時間があり、特に入浴の時は1対1で向き合うことが出来るため、話の中から思いをくみ取っている。買いたいもの、食べたいもの、やりたいことなどの声に出来るだけ添えるよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時から生活歴や生活環境等・サービス利用状況を把握したり、日々の会話の中から情報を得て、スタッフ全員で共有し馴染みの暮らしが継続できるように取り組んでいます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の様子をD-4シートや業務日誌に記録し、毎日のミーティングでスタッフ間で共有できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ全員でケアカンファレンスを行い、モニタリングや課題についての話し合いで本人の意向を反映できるように介護計画を作成しています。また家族の思いを面会時に聞き取ったり、意向確認書等に記入して頂いたりしてケアプランに活かせるようにしています。	利用者の意向に添った具体的なプランになっており、職員がモニタリングしやすく意見が出しやすい中で話し合い、計画が作成されている。家族の思いや意向は直接書いてもらっており、意向確認書も併せて利用者や家族の声が反映されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や会話の内容・スタッフの気づき等をD-4シートに記録し、スタッフ間で共有しケアプランの見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の様々なニーズに対してその都度柔軟な対応を心がけています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年々地域の行事への参加も増え、住民の方々との交流が深まっているように感じています。夏休みには地元の学生さんとの交流も行っており、利用者の皆さん楽しみにされているため、今後もより豊かな暮らしが出来るように支援していきたいと思っています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の意向を尊重し、適切な医療が受けられるように支援しています。医療機関とは連携を取りながら、往診・受診・電話相談などにより、きめ細やかな対応が受けられ、利用者の健康維持に繋がっています。	本人や家族の意向でかかりつけ医を決めている。医療機関とは普段から関係が築けており、往診や受診、電話相談などで、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。家族との連携は密にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>スタッフは利用者さんの変化があれば看護師に報告し、適切な指示や助言が受けれる体制になっています。また、協力医療機関に相談したり、助言を頂き、利用者さんの健康管理が出来ています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された場合には、病院の看護師さんや相談員とは常に連絡を取りあい、退院後の受け入れ態勢を整えるなど、信頼関係づくりに努めています。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居される際には取りあえず重度化した場合の意向を伺いますが、重度化した場合には再度意向を伺い、主治医との連携を密に事業所として出来る範囲の支援を行えるように努めています。</p>	<p>利用者の状況により、その時々で家族と連絡を取り合って相談している。主治医と連携し看取りを行うことも含め、事業所として出来る範囲の支援を行うよう努めている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成し、マニュアルの見直しもその都度行い、緊急時に対応できるように、消防署職員の派遣を受けて講習会も行い、スタッフ全員が適切に対応できるように確認し合っています。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力により防災訓練は年2回行い、近隣住民の方の協力で2次避難訓練まで行い災害時に備えています。地域との連携については運営推進会議を通じて依頼して頂き協力体制を整えています。非常食の備蓄も行っています。</p>	<p>防災訓練は消防署のアドバイスを受け、運営推進会議で話し合いながら行っている。地域の協力隊があり、区長を中心に連携できる体制が整っている。夜間を想定した訓練を行ったり車椅子の利用など、個々についても対応できるようにしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体の介護理念として「人の尊厳を大切にする介護」を柱としており、尊重した言葉かけを心がけ、毎月の会議の場でも振り返りを行っています。また、排泄介助時や入浴時なども意識を持って対応しています。	個の尊厳を大切にするという理念に添い特に言葉かけに注意し、大きな声を出さない、ダメなど禁止する言葉を使わないなど心掛けている。会議の場で振り返りを行ったり、研修会にも参加している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声には常に耳を傾け、日々の会話の中から思いを汲み取ったり、希望を聞き出し、一緒に考えたり、アドバイスをしたりして本人に決めて頂ける様心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムを大切に、出来る限り希望に添えるように努めています。運動やゲーム等に参加することが嫌いな方には、無理強いせず、部屋で過ごして頂いたり、料理など得意な事を行って頂いています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みやスタイル等を把握し、個々の身だしなみの支援を行なっています。また、整容には常に細やかな気遣いを行い、促しや介助を行っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れた献立を立て、調理から配膳まで一緒に行って頂くなど食事を楽しんで頂ける様に支援しています。季節のおやつ作りも一緒に行っています。	この日も、利用者が出来ることをやるということで職員が間に入り声をかけながら、食材を切る、ゆでる、盛り付けるなど楽しそうにやっていた。おはぎを作る、餅をつく、おせちを作るなど利用者が希望を出しながら作り、食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立はバランスや地域性・好みを考慮し、状態に合わせて提供しています。一人ひとりの食量や水分を記録し、水分が不足しがちな方には好みの飲み物を提供する等の支援を行なっています。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアには注意を払い、虫歯や歯の状態に気を配り、治療が必要な場合や、かみ合わせが良くない方は歯科受診を行うなどの対応も行っています。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>自尊心と快適さを重視し、一人ひとりのパターンを把握し、快適に過ごして頂ける様に支援しています。また、排泄の自立に向けてケアカンファレンスで検討する等自立に向けた支援も行っています。</p>	<p>利用者の排泄パターンを記録し状況を見ながら声をかけ、パットを使わなくなった利用者や、自分で交換できるようになった利用者もいる。利用者に合わせて自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘を解消するために、日々の生活の中で身体を動かして頂けるような支援を行ったり、繊維質の多い食品を献立に取り入れる等の対応を行っています。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>希望がある場合は見守りが出来る限り、時間の幅を広げるように心がけたり、一人の方との関わりなので会話を楽しみながら行っています。日中の入浴拒否のある方には夜間の入浴も行っています。</p>	<p>特に曜日は決めず「今日入りたいと言っている」「昨日は入っていない」など、利用者の希望や状況を見ながら入浴している。夜だけ入る利用者もいる。しょうぶ湯やゆず湯などで季節を楽しんでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ自宅でのペースを尊重し、温度・湿度・照明などに注意を払い、眠れない場合は、安心できるような話をしたりお茶などを提供し、安心して休んで頂けるように支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はスタッフが確認できるようにし、服用後の状態の観察・記録も行うようにしています。確実な服用(セット時・配布時・飲みこまれるまで確認)を心がけています。薬が変更になった場合には状態の観察にも注意を払っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・好きな事・得意な事を把握し、経験を活かして頂ける様に支援しています。一人ひとりの役割も利用者さん同士でおおよそ決まっており、楽しみながら行ってみえるように感じます。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせ、散歩や買い物などに出かけられるように支援しています。コンビニに買い物に行くことを楽しみにしてみえる方もあり個別対応に努めたり、全員での外出(外食)の機会を作り楽しんで頂いています。	毎日外出できるとは限らないが、天気を見て散歩をしたり、職員とお米を精米に行ったり、コンビニに出かけたりしている。月に1回は外で食事をしており利用者はそれをとても楽しみにしている。季節にあわせ敷地内で山菜を取ったり、畑で野菜を作ったりして楽しんでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かる事を基本としていますが、中には自己管理をされている方もあり、日用品やお菓子等の買い物を楽しまれる方もあります。また、外出の際には預かっているお金を自分で持参して頂き、買い物を楽しんで頂ける様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望された場合は自由にかけて頂いています。最近は携帯電話を持ってみえる方もありますが、認知症の進行と共に使えなくなる方もあります。手紙を書かれることはあまりありませんが、希望があれば支援していけるよう心掛けています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や換気・彩光・音には常に気を配り、居心地良く暮らして頂けるように支援しています。皆さんと一緒に季節の貼り絵を貼ったり、季節の花を活けたり、快適に過ごせる空間づくりを目指しています。	廊下の一角にソファとテーブルが置いてあり、夕食後には利用者がそれぞれ好きなお菓子や果物を持って集まり、お茶会を開くのが楽しみとなっている。廊下に畳のスペースもありゆったりくつろげる共有空間がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にサンルームにソファを設置したり、畳コーナーや広々としたウッドデッキがあり、其々好みの場所で過ごして頂ける様になっています。また、夕食後には入居者さん同士サンルームなどへお菓子を持ち寄ってお茶を飲みながら話が弾み、楽しめる姿もみられます		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で使い慣れた物を持ち込んで頂くように依頼していますが、全員の方が持ち込まれているわけではありませんが、家族の写真やこだわりの小物などを持ち込まれたり、畳を敷き冬はこたつを使ってみえる方もあります。	母親が使っていたというタンスを置いている利用者や、畳を敷いてこたつを作っている利用者がいたり、写真や好きな小物を飾ってそれぞれに自分の好きな居室を作っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は常に整理整頓と清掃には気を配り、安全な環境作りや、居室は筆筒などの収納ケースの配置に気を配り、状況に応じて配置を変えて安全かつ自立した生活が送れるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>開設当初からの理念(暖かい笑顔で、心を込めた愛情あふれるケア・寄り添い触れあい耳を傾け共に過ごすケア)を常に意識しながら日々のケアに取り組んでいます。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治体へ加入しており、広報の配布を受けているため地域の情報も得られ、地域のお祭りや敬老会などの催し物への参加や・地元高校生との交流会・中学生職場体験受け入れ・小学生との交流会・演芸ボランティア等で交流しています。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の老人会などからスタッフ参加要請を受けたり、地域の行事に参加する等認知症の理解を獲られるように努めています。また、災害時の福祉避難所として町と協定を結び災害時の受け入れ態勢を整えています。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では活動状況や入居者の状況を報告したり、困難事例の相談を行い、様々な意見交換を行っています。委員には包括支援センター職員・消防署員・区長・民生委員や近隣住民の方等に委員となって頂き、地域の情報を頂いたり、災害時の協力体制を整えて頂くなどの協力も得られています。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>月1回の地域ケア会議・ケアマネ会議等へ参加し、情報交換や困難事例の相談を行ったり、電話での相談も受けるなど協力関係を築くよう努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時やスタッフ会議の場で、具体的な内容について話し合う機会を設け、拘束をしないケアに取り組んでいます。ホームの立地条件上玄関先は危険を感じますが、スタッフ同士の声掛けや見守りで玄関を開放し身体拘束にならないケアに取り組んでいます。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を入社時研修項目にいれ、虐待防止について学び、スタッフ同士で常に意識してケアに取り組んでいます。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用できるように支援し、入居者の何名かは制度を利用している方があります。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった時点から、契約内容について十分な説明を行ない、入居が決定した場合は契約書の内容を再度説明したりして理解して頂くように努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・利用者からは管理者に対して要望を言い易い雰囲気作りや信頼関係づくりに心がけています。意向確認書に家族に希望を記入して頂き全員で情報を共有し、ケアプランの更新時にはケア反映するように努めています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議を行い、代表者・管理者・職員と意見交換を行い、運営に反映できるように努めています。また、日々のミーティングでも意見交換を行い運営に反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ同士の信頼関係づくりに努め、働きやすい職場環境づくりに努めています。また、個々の向上心や自己研鑽状況により処遇の改善を行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修会の情報をスタッフに提供し、学ぶ機会をより多く持ちスキルアップしていくように努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣で活動しているネットワーク研修会に加盟し勉強会や研究発表会に参加し、質の向上に努めたり、同業者と交流する機会を持っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の事前面談時には、本人の思いの汲み取りや、不安なことに対してはできるだけ丁寧に説明を行い、入居をされるにあたって、体験入居して頂き、サービスを利用するか決められる方もあり信頼関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや不安等を丁寧に伺い、要望に添えるように十分な話し合いを行い、信頼関係を築くように努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込みがあった時点から、情報収集を行い、必要なサービスを見極め、理解して頂ける様に説明と話し合いが出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時の情報や入居後の状態をスタッフ全員で共有し、信頼関係を築くように努めたり、常に細やかな気遣いを行っています。また、共に過ごすことを理念に掲げ、日々のケアに取り組んでいます。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係性を大切に常に利用者の状況や要望など報告し、協力しあえるように支援しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族やケアマネから情報収集し(センター方式シート使用)地域社会との繋がりを把握し、外食・理美容院・買い物等地域との関係性が途切れない様に支援しています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が常に間に入り共通の話題を提供したり家事を一緒に行って頂くなどより良い関係が持てるように努めています。また、利用者さん同士の支え合いの場面も見受けられます。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合は、その後のサービス利用状況もあるので、継続した支援は難しく感じますが、入居中の生活の様子をアルバムにして家族に届ける事もあります。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時から情報収集を行ったり、日常の会話の中から思いや願いを聞き出し、職員間で共有し出来るだけ本人の意向に添えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時から生活歴や生活環境等・サービス利用状況を把握したり、日々の会話の中から情報を得て、スタッフ全員で共有し馴染みの暮らしが継続できるように取り組んでいます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の様子をD-4シートや業務日誌に記録し、毎日のミーティングでスタッフ間で共有できるようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ全員でケアカンファレンスを行い、モニタリングや課題についての話し合いで本人の意向を反映できるように介護計画を作成しています。また家族の思いを面会時に聞き取ったり、意向確認書等に記入して頂いたりしてケアプランに活かせるようにしています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や会話の内容・スタッフの気づき等をD-4シートに記録し、スタッフ間で共有しケアプランの見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の様々なニーズに対してその都度柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>年々地域の行事への参加も増え、住民の方々との交流が深まっているように感じています。夏休みには地元の学生さんとの交流も行っており、利用者の皆さん楽しみにされているため、今後もより豊かな暮らしが出来るように支援していきたいと思っています。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は本人・家族の意向を尊重し、適切な医療が受けられるように支援しています。医療機関とは連携を取りながら、往診・受診・電話相談などにより、きめ細やかな対応が受けられ、利用者の健康維持に繋がっています。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>スタッフは利用者さんの変化があれば看護師に報告し、適切な指示や助言が受けれる体制になっています。また、協力医療機関に相談したり、助言を頂き、利用者さんの健康管理が出来ています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された場合には、病院の看護師さんや相談員とは常に連絡を取りあい、退院後の受け入れ態勢を整えるなど、信頼関係づくりに努めています。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居される際には取りあえず重度化した場合の意向を伺いますが、重度化した場合には再度意向を伺い、主治医との連携を密に事業所として出来る範囲の支援を行えるように努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、マニュアルの見直しもその都度行い、緊急時に対応できるように、消防署職員の派遣を受けて講習会も行い、スタッフ全員が適切に対応できるように確認し合っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により防災訓練は年2回行い、近隣住民の方の協力で2次避難訓練まで行い災害時に備えています。地域との連携については運営推進会議を通じて依頼して頂き協力体制を整えています。非常食の備蓄も行っています。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体の介護理念として「人の尊厳を大切にする介護」を柱としており、尊重した言葉かけを心がけ、毎月の会議の場でも振り返りを行っています。また、排泄介助時や入浴時なども意識を持って対応しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声には常に耳を傾け、日々の会話の中から思いを汲み取ったり、希望を聞き出し、一緒に考えたり、アドバイスをしたりして本人に決めて頂ける様心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムを大切にし、出来る限り希望に添えるように努めています。運動やゲーム等に参加することが嫌いな方には、無理強いせず、部屋で過ごして頂いたり、料理など得意な事を行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みやスタイル等を把握し、個々の身だしなみの支援を行なっています。また、整容には常に細やかな気遣いを行い、促しや介助を行なっています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れた献立を立て、調理から配膳まで一緒に行き頂くなど食事を楽しんで頂ける様に支援しています。季節のおやつ作りも一緒に行き頂いています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はバランスや地域性・好みを考慮し、状態に合わせて提供しています。一人ひとりの食事量や水分を記録し、水分が不足しがちな方には好みの飲み物を提供する等の支援を行なっています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアには注意を払い、虫歯や歯の状態に気を配り、治療が必要な場合や、かみ合わせが良くない方は歯科受診を行うなどの対応も行っています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心と快適さを重視し、一人ひとりのパターンを把握し、快適に過ごして頂ける様に支援しています。また、排泄の自立に向けてケアカンファレンスで検討する等自立に向けた支援も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を解消するために、日々の生活の中で身体を動かして頂けるような支援を行ったり、繊維質の多い食品を献立に取り入れる等の対応を行っています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある場合は見守りが出来る限り、時間の幅を広げるように心がけたり、一人の方との関わりなので会話を楽しみながら行っています。日中の入浴拒否のある方には夜間の入浴も行っています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ自宅でのペースを尊重し、温度・湿度・照明などに注意を払い、眠れない場合は、安心できるような話をしたりお茶などを提供し、安心して休んで頂けるように支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はスタッフが確認できるようにし、服用後の状態の観察・記録も行うようにしています。確実な服用(セット時・配布時・飲みこまれるまで確認)を心がけています。薬が変更になった場合には状態の観察にも注意を払っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・好きな事・得意な事を把握し、経験を活かして頂ける様に支援しています。一人ひとりの役割も利用者さん同士でおおよそ決まっており、楽しみながら行ってみえるように感じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者の体調に合わせ、散歩や買い物などに出かけられるように支援しています。コンビニに買い物に行くことを楽しみにしてみえる方もあり個別対応に努めたり、全員での外出(外食)の機会を作り楽しんで頂いています。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事務所で預かる事を基本としていますが、中には自己管理をされている方もあり、日用品やお菓子等の買い物を楽しまれる方もあります。また、外出の際には預かっているお金を自分で持参して頂き、買い物を楽しんで頂ける様に支援しています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は希望された場合は自由にかけて頂いています。最近は携帯電話を持ってみえる方もありますが、認知症の進行と共に使えなくなる方もあります。手紙を書かれることはあまりありませんが、希望があれば支援していけるよう心掛けています。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度や換気・彩光・音には常に気を配り、居心地良く暮らして頂けるように支援しています。皆さんと一緒に季節の貼り絵を貼ったり、季節の花を活けたり、快適に過ごせる空間づくりを目指しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にサンルームにソファを設置したり、畳コーナーや広々としたウッドデッキがあり、其々好みの場所で過ごして頂ける様になっています。また、夕食後には入居者さん同士サンルームなどへお菓子を持ち寄ってお茶を飲みながら話が弾み、楽しめる姿もみられます		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で使い慣れた物を持ち込んで頂くように依頼していますが、全員の方が持ち込まれているわけではありませんが、家族の写真やこだわりの小物などを持ち込まれたり、畳を敷き冬はこたつを使ってみえる方もあります。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は常に整理整頓と清掃には気を配り、安全な環境作りや、居室内は筆筒などの収納ケースの配置に気を配り、状況に応じて配置を変えて安全かつ自立した生活が送れるように支援しています。		

目標達成計画

作成日: 平成 28年 3 月11 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	新人スタッフに理念の共有についての理解不足がある。	全スタッフで理念の共有についての考え方を更に深める。	1、日々のケアに取り組む中で、スタッフ間で意見交換を行い、常に理念を意識した関わりを行い、新しい職員へも伝えていく。 2、毎月行っているスタッフ会議で理念に向かって取り組んでいるかの振り返りを行う。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。